



サクラ咲く



～高校選択をするうえで～

「受験って…どうしたら、いいの？」に答えます！

- | | |
|---|---|
| <p>1. どうやって学校を選んだらいいの？
 公立、私立、国立のメリットデメリット</p> <p>2. 倍率ってなに？</p> <p>3. 学区ってなに？</p> <p>4. 私立、公立の受験の内容って？</p> <p>5. 公立受験の適性検査の内容をもう少し詳しく教えて！</p> <p>6. 調査書と内申書って違うの？通知票と違うの？</p> <p>7. 調査書（通知票）は、どう活用されるの？</p> | <p>8. 公立入学者選抜の調査書の評価に「Kの値」ってあるけど、「K」ってなに？</p> <p>9. どうやって勉強したらいいの？</p> <p>10. 受験って忙しいとは聞くけど、スケジュールってどうなっているの？</p> <p>11. 受験前から受験後の費用って？</p> <p>12. 「安全校」ってなに？</p> <p>13. 定時制ってなに？</p> <p>14. 「偏差値」ってなに？どう見るの？</p> |
|---|---|

1. どうやって学校を選んだらいいの？公立、私立、国立のメリットデメリット

高校に行くための目的は様々ですが、軸は学習です。中学卒業後は高校や大学に進学する際も、将来に向けて職業に就く際も、これまでどんな学習をしてきたかが評価される『学習した人を求める社会』です。学習をしたくない人は、進学をするべきではありません。『学習』とは、もちろん5教科の場合もありますが、そればかりではなくスポーツや福祉・医療・工学などの専門を深めるのも『学習』です。『どの環境なら進学した後、学びができるのか』『どこに属すれば、求めている自分になれるのか』などを考えていく事が選ぶポイントでしょう。

あくまで高校進学は「人生の通過点」です。高校受験がゴールではありません。自分の未来を想像し、目標を持ったうえで、3年間通う場として自身に適しているか肌で感じるため、説明会や体験入学、文化祭に参加をしましょう。施設や先生方、部活動、学校独自のプロジェクト、キャリア教育(進路)などを知る事が大切です。

公立、私立、国立の特徴をまとめましたので、特徴を掴んでから見学をしましょう。

	公立	私立	国立
メリ	<ul style="list-style-type: none"> ・費用が安い。 ・学校が近隣にある。 ・どの高校でも同じ教育内容を県や国で保証される。 ・校則は緩め。 ・進学した先輩が身の回りに多く情報が入りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦試験がある。(基準あり) ・予備校程度の手厚い学習指導と環境。 ・学校専用施設や交通手段の充実。 ・教育理念が独特。(宗教教育も可能) ・専門性も高い。 ・特待生、特別進学コースなどの待遇やコースに幅がある。 ・私立大学の付属校がある。 ・先生方の転勤がない。 ・学校によって学習進度や内容が違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学の付属校がほとんどである。 ・新しい取り組みの「教育研究校」として最新の指導法に触れる。 <p>*公立の要素を含む</p>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験のための予備校程度の指導、環境が校内にない。 ・学区が指定されている。 ・先生方の転勤がある。 ・大学進学のために予備校に通うと費用が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用が高い。(授業料無償化制度もある。) ・一般試験は独自問題。 ・中高一貫高校では、高校入学者と中学入学者によって学習進度が違う。 ・学校理念が独特で合わない。 ・校則が厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜試験が難関であり独自問題。 ・学校までの距離が遠い。

2. 倍率ってなに？

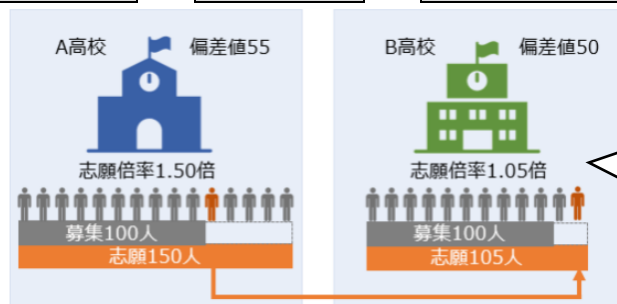
倍率とは入試の募集定員に対しての受験者数を表したものです。公立は私立と違って、募集定員よりも少なく受験者を受け入れたり、多く受験者を受け入れたりしません。要するに募集定員ぴったりしか合格者を出しません。仮に100人募集定員に対して100人が受験したとします。

	募集定員を100人として	一般入学者選抜
例1	受験者100人	$\frac{100人(受験者)}{100人(募集定員)} = 1.00倍$ → 二次募集なし
例2	受験者150人	$\frac{150人(受験者)}{100人(募集定員)} = 1.50倍$ → 二次募集なし 不合格者50人
例3	受験者90人	$\frac{90人(受験者)}{100人(募集定員)} = 0.90倍$ → 二次募集あり 10人程度の定員

- * 募集定員に満たない場合のみ、二次募集を行います。若干名です。
- * 募集定員は、近隣の高校は320人定員(40人程度×8クラス)が多いです。県立松戸や松戸向陽などの普通科と他の学科がある複数学科の学校、船橋古和釜高校や流山北高校のような学び直しの学校、定時制高校はこれに該当せず、募集定員が少ないです。
- * 今年度の県内生徒数と各校の募集定員が合っていないため、次年度は募集定員の改定がされるかもしれません。

『出願したはいいが、倍率が高いからと動揺→倍率の低さだけで志願変更して受検』という流れは、これから3年間通う学校の決め方として、あまり理想的ではありません。出願時にある程度、受検するであろう学校を予想して見学しておくなどの準備をしておく必要があります。

倍率が高い → **競争率が高い** → **どのくらいの倍率になったら学校を変える？変えない？** を早めに考える!!



倍率がいくら高くても、目標合格点をクリアできれば、当然、入学許可候補者に選ばれるはずですので、あまり倍率を意識しすぎないようにしたいです。

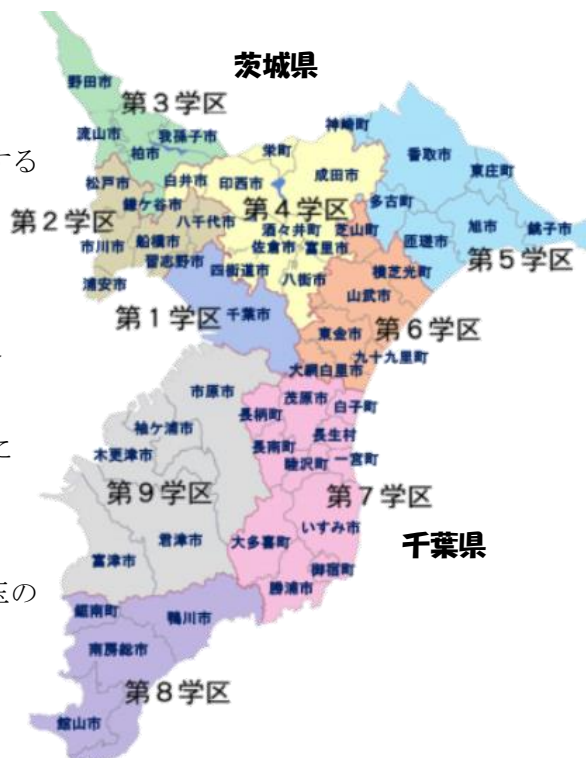
志願変更しても、募集人員内に入れる学力がないと合格はできない

3. 学区ってなに？

松戸市は第2学区です。普通科には受検できる公立高校は隣接する学区であることが一般的です。(例外もありますが)私たち2学区の隣接は第1学区(千葉市)、第2学区(松戸、市川、鎌ヶ谷、八千代、浦安、習志野)、第3学区(柏、流山、我孫子、野田)第4学区(白井、印西、酒々井、佐倉…)です。たぶん隣接学区以外は遠くて通えないでしょう。

県外の公立受検は第2学区ではできません。ただし、第3学区に転居し、茨城の公立高校を受験したという例はあります。その場合は「隣接学区」となり受検は可能です。

私立については学区の指定はありませんので、東京や茨城、埼玉の受検は可能です。



4. 私立、公立の受験の内容って？

	私立(推薦、一般)	一般入学者選抜(全日制の課程) *例年の出題傾向は別表参照
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・学科試験(3教科が一般的) * 推薦は書類提出等で選考基準を満たしている事が最低条件です。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語(聞き取り検査) ・数学 ・英語(リスニングテスト) *60分テスト
2日目		<ul style="list-style-type: none"> ・理科 ・社会 ・各高等学校が定める検査 (面接、集団討議、自己表現、作文、小論文、適性検査、 学校独自問題及びその他の検査から一つ以上の検査)

5. 公立の適性検査の内容をもう少し詳しく教えて！

例年にならうと以下の通りです。大きくは変わらないと思います。

面接(集団→3~6人、個人 約7,8分)

- ・**自分について**— 長所・短所、趣味特技、気になっているニュースや本、得意な教科・苦手な教科
座右の銘、将来の夢
- ・**中学時代について**— 頑張ってきたこと、部活動や委員会活動で学んだこと、どんな中学校か、
お世話になった先生や担任について
- ・**高校では**— 高校卒業後の進路、高校で頑張りたいこと(部活動や行事)、この学校はどんな学校か
- ・**将来について**— 目指す職業やジャンル、進学(大学・専門学校)か就職、どんな大人になっていくか
- ・**社会的なこと**— ルール・マナーをどう考えているか(校則、電車バス内)、SNSについて

自己表現(評価方法は様々。点数で表すか、A, B, C, で評価。各校のホームページで公表。)

- ・**実技**— 高校で3年間続ける意志のある者のみ。実技はスポーツ以外の文化系もある。(合唱や吹奏楽も)
内容は基礎的な技能を見ることが一般的。事前に中学校と高校の顧問が話し合うことが必要。
- ・**スピーチ or 自己PR**— 面接で話すような内容を、決められた時間内で、これまでの努力や高校生活の目標や取り組みたいことを話す。(約2分)
*国際科は英語での受け答え、音読もある。(英検3級程度)
- ・**作文**— 500~600字で出題に答える。制限時間も決まっている。ほとんどの学校が「高校生活をどう過ごしたいか」「中学校で頑張ったこと」というテーマ。ある学校では「マイナス×マイナス=プラスになる理由」や「グローバル社会を生き抜くために、何をすべきか」のようなものもある。

*評価方法や点数などは学校によって様々ですが、学科検査の配点が一番高いのは言うまでもありません。



私が、貴校を志望した理由は2つあります。
1つめは・・・

6. 調査書と内申書って違うの？通知票と違うの？

調査書と内申書とは同じ意味です。3年間の通知票をまとめた『内申』が書かれた高校提出書類を『調査書』といいます。この『調査書』は私立、公立共に願書と一緒に高校側に提出し、評価対象となります。

調 査 書											
受検番号	ふりがな	性別	学籍の記録	平成・令和	年	月	入学・転入学・編入学				
*	氏名			平成・令和	年	月	卒業見込	卒業			
教科 学年 教科の学習の記録	必修教科の評定										
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	家庭	外国語	合計	
	第1学年										
	第2学年										
	第3学年										
全学年の計											
備考	私立高校に提出する時 1or2 学期の通知票の成績 公立高校に提出する時は 1, 2 学期の学年末評定										
総合的な学習の時間 の記録	第1学年										
	第2学年										
	第3学年										
出欠の記録	学年	欠席日数	欠席の主な理由等								
	第1学年										
	第2学年										
	第3学年										
行動の記録	基本的な生活習慣		健康・体力の向上		自主・自律		責任感		創意工夫		
	思いやり・協力		生命尊重・自然愛護		勤労・奉仕		公正・公平		公共心・公徳心		
特別活動の記録	学級活動										
	生徒会活動										
	学校行事										
部活動の記録											
特記事項											
総合所見											
本書の記載事項に誤りがないことを証明します。											
										中学校長	印
令和	年	月	日	記載責任者		職	氏名	印			

ここが、学習面です！

私立高校に提出する時 1or2 学期の通知票の成績
公立高校に提出する時は 1, 2 学期の学年末評定

上限は「135」です。

ここは、すべて生活面です。

7. 調査書（通知票）は、どう活用されるの？

	私立	公立
学習面	<p>3年の1学期か2学期のどちらか、または指定された学期の<u>通知票</u>の評価合計で、<u>基準をクリアした者に推薦の受験資格が与えられます</u>。学校によって教科の指定(3教科、5教科、9教科)や基準は様々です。毎年、ホームページや説明会で公表されます。推薦の基準は<u>単願推薦(第1希望で、他の私立や公立も受けない推薦)</u>と<u>併願推薦(第2希望以下で、第1希望に行かれない場合は進学する事を約束する推薦)</u>で基準の数値に差があります。また、特別進学コースや特待生制度(入学金などの免除)にも基準があります。</p> <p>「一般入試」には基準は設けられていませんが、『これまでの学習の様子』として、調査書は合否の判定に使われることがあります。</p>	<p>通知票の3年間の評価を合計したものです。これが『内申点』と呼ばれるものです。</p> <p>受検資格や受検基準などは設けていませんし、合格基準の公開もされていません。</p> <p>(参考)</p> <p>3年間<u>オール5だと135</u>(評価「5」×9教科×3年間)となり、<u>オール3だと81</u>(評価「3」×9教科×3年間)になります。</p>
生活面	<p>学習面の<u>基準に加えて、調査書の生活面を見て加点します</u>。高校によって加点の基準は様々です。また、加点には上限がありますので、学習面で基準をクリアできることが理想です。英語検定や漢字検定、数学検定などの検定は3級以上で加点がされるのが一般的です。部活動での大会成績、委員会活動なども加点の対象になる学校もありますが、基準や加点の度合いは高校によって様々です。詳しくは、推薦基準同様に各高校の資料にて公表されていますので確認しましょう。(私立は11月まで、公立は12月までの内容を調査書に記入します。)</p>	<p>調査書の「行動の記録」の○の数や学校ごとに重視している項目(例えば「自主・自律」)で加点がされる高校もあります。私立同様、各種検定や委員会、係などの役割、行事の関わり方など<u>全ての生活面が評価の対象です</u>。</p> <p>生活面の加点内容は公表されていませんが、「何点満点で評価する」や「A、B、Cで判定する」などの目安や選考基準は各高校のホームページで公開されています。</p>

*東京の私立は『併願推薦入試』とは言わずに『併願優遇』という言い方もしますが、意味合いはほぼ同じです。

8. 公立入学者選抜の調査書の評価に「Kの値」ってあるけど、「K」ってなに？

『K = 評定にかける係数』です。「Kの値が1」とは、「調査書の学習評定を1倍(通常通り)で評価します」ということです。「Kの値が2」とは、「調査書の学習評定を2倍で評価します」ということです。つまり、「1～3年の日頃の評価が非常に大切にしていますよ」というメッセージだと覚えていて下さい。

学力検査の5教科合計 + (調査書の学習評定合計) × K

*詳細は千葉県教育委員会のホームページで確認して下さい。

9. どうやって勉強したらいいの？

出題の問題構成が大方決まっております、出題分野も分かれています。どの分野にどれくらいの学習が必要か考えて、学習していけると良いですね。

***あくまで参考ですので、詳しくは各教科担当の先生に聞いて下さい。**

国語	出題項目	点数
一	放送による聞き取り	10点
二	漢字の読み書き	8点
三	漢字の書き	10点
四	言語事項	8点
五	説明的文章の読解	20点
六	文学的文章の読解	20点
七	古典の読解	12点
八	作文	12点

数学	出題項目	点数	履修学年
1	数と式の計算 (文字式、方程式、文章問題)	50点	1~3年
2	平面図形(合同、性質、角度)	10点	1~3年
3	空間図形(体積、表面積、ねじれ)	5点	1~2年
4	命題の証明(合同、相似)	10点	2~3年
5	関数(反比例、一次関数、二次関数)	15点	1~3年
6	資料の活用	5点	2年
7	確率	5点	2年

理科	出題項目	点数	履修学年
物理	電流・電圧と抵抗(2年)	25点	1~3年
	力学的エネルギー(3年)		
	凸レンズの働き(1年)		
化学	化学変化と電池(3年)	25点	1~3年
	物質の融点と沸点(1年)		
	化学変化と物質の質量(2年)		
生物	生命を維持する働き(2年)	25点	1~2年
	植物の体の作りと働き(1年)		
地学	地層の重なりと 過去の様子(1年)	25点	1~3年
	惑星と恒星(3年)		
	霧や雲の発生・気象(2年)		

社会	出題項目	点数	履修学年
総合	総合問題	10点前後	1~3年
地理	日本地理	30点前後	1~2年
	世界地理		
歴史	前近代史	30点前後	1~2年
	近・現代史		
公民	日本の政治制度 国際社会 国民生活と経済・社会	30点前後	3年

英語	出題項目	点数
聞くこと	リスニングテスト	20点前後
読むこと	短い文章の読解	45点程度
	長い文章の読解 対話文の流れの理解	
書くこと	単語のつづり 文法及び文構造 英語による自己表現	35点程度

* 積み重ねの教科(国、数、英)は、学年ごとの理解も必要ですが、練習問題や入試問題など多くの問題に慣れ、紐解いていく中で解けるようになるケースもあります。諦めずに解き、関連性を見つけ、学習内容が繋がっていることがわかっていくまで粘り強く学習しましょう。

* 分野で分かれているものは、得意・不得意に分かれやすいので苦手を克服し、得意を伸ばしましょう。得意分野も不得意分野も同じ配点ですので、まんべんなく取り組みましょう。

*** 細かく学習するには、各教科担当の先生に聞き、学習の仕方を学びましょう。**



10. 受験って忙しいとは聞くけど、スケジュールってどうなっているの? * → の間で多く実施されています。

11	日	月	火	水	木	金	土	日
2020	1	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31	

2020 **12**月

1	日	月	火	水	木	金	土	日
2021	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31			

2021 **1**月

2	日	月	火	水	木	金	土	日
2021	1	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

茨城私立出願開始 (10-12)

千葉私立前期出願開始 (18-20)

終業式 (25)

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

茨城私立受験開始 (8-9)

茨城私立発表開始 (12-13)

千葉私立前期受験開始 (17-18)

東京私立出願開始 (20-21)

東京私立受験&発表開始 (26-27)

千葉後期私立出願開始 (29-30)

1	日	月	火	水	木	金	土	日
2021	3	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31			

2021 **2**月

3	日	月	火	水	木	金	土	日
2021	7	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29	30
	31							

3 March 2021

4	日	月	火	水	木	金	土	日
2021	4	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	1	2	3	4	5	6

公立一般入学者選拔出願 (9-12)

公立志願変更 (17-18)

公立一般入学者選抜 (24-25)

公立追検査出願 (26)

千葉後期私立試験&結果発表 (14-15)

天聖祭 (23)

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
28	(1)	2	(3)	4	(5) 公立発表	私立併願入学手続
7	8	9	(10) 二次募集出願	11	12	13
14	(15) 二次募集試験	(16) 卒業式	(17) 二次募集発表	18	19	(20) 春分の日
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

* 二次募集は一般入学者選抜後に行われ、卒業式後に結果発表になります。二次募集が行われるか、どの学校に募集があるのかは、ギリギリまでわかりません。また、その際の倍率は10倍前後になる年もあります。

11. 受験前から受験後の費用って? (R2年度入学生)

	私立(例: 日体柏高校) *1	公立
受験前	受験料 22,000円 (コンビニ払込やクレジットカード決済、金融機関のATM払込から選択)	・ <u>県立、市立 2,200円</u> (証紙 or 払い込み) ・ <u>定時制・通信制 950円</u> (証紙)
受験後	<u>延納金なし</u> (公立後期選抜の結果まで入学の手続きを待ってもらった費用が必要ないということ。) *高校によっては、 <u>延納金を払って手続きを待ってもらった学校もあります。(1~5万円程度)</u>	なし
手続き	入学金 297,000円	入学金 5,650円
授業料	1ヶ月 25,000円 *1 *2	1ヶ月 9,900円 *1
その他	・修学旅行積立金 (国内 or 海外) ・施設費、校内学習環境 (学習室、校内予備校) ・制服、上履き、校内服、指定用品 (バッグ、タブレットPC) ・教材費、行事費、生徒会費等	・修学旅行積立金 (国内 or 海外) ・制服、上履き、校内服 ・教材費、行事費、生徒会費等
免除	特待生制度あり (入学金免除、授業料免除、全額免除)	なし

*1 助成金: 所得に応じて私立や公立を問わず、補助が受けられる。(学費の3分の1~全額まで)

*2 私立高校授業料実質無償化: 所得に応じて私立授業料が最大で無料になる。(シュミレーションサイトあり。)

12. 「安全校」ってなに？

『安全校』は第1希望が不合格でも、進学できる学校に合格しておく事です

パターン1

第1希望	第2希望
公立(一般入学者選抜)	私立(併願推薦入試)

この場合、第2希望の「併願推薦入試」が『安全校』になります。併願推薦入試は出願時に基準をすでにクリアしているので、よほどの事が無い限り不合格にはなりません。
このパターン1が一番多い受験のパターンです。

パターン2

第1希望	第2希望	第3希望
公立(一般入学者選抜)	私立(一般入試)	私立(併願推薦入試)

この場合、第3希望の「併願推薦入試」が『安全校』になります。第2希望の「私立(一般入試)」は合格点に届かなければ合格できないため、『安全校』にはなりません。

第1希望	第2希望
私立(一般入試)	私立(併願推薦入試)

パターン3

第1希望	第2希望
私立(単願推薦入試)	私立(一般入試)

推薦入試がある場合は一般的に『安全校』は、あまり考えません。

パターン4 (公立は『安全校』にできません。)

第1希望	第2希望	第3希望
私立(一般入試)	× 私立(単願推薦入試)	× 公立(一般入学者選抜)

単願推薦入試がある場合は必ず第1希望にします。

公立は受検し、合格が発表されると『第1希望』になります。公立をやめて、私立に行くという事はできません。これは、『公立は合格者をピツリ出す』という話と繋がってきます。

* 『推薦』とは、推薦を希望し、『私立推薦検討会』で職員の承認を得て、学校長が認めた者がもらえるものです。誰にでも推薦を与えるわけではありませんし、誰かが勝手に推薦してくれるものでもありません。担任や部活動顧問、学年職員から『信頼できる(約束ができる)』と思われる人になっていなくてはなりません。

13. 定時制ってなに？

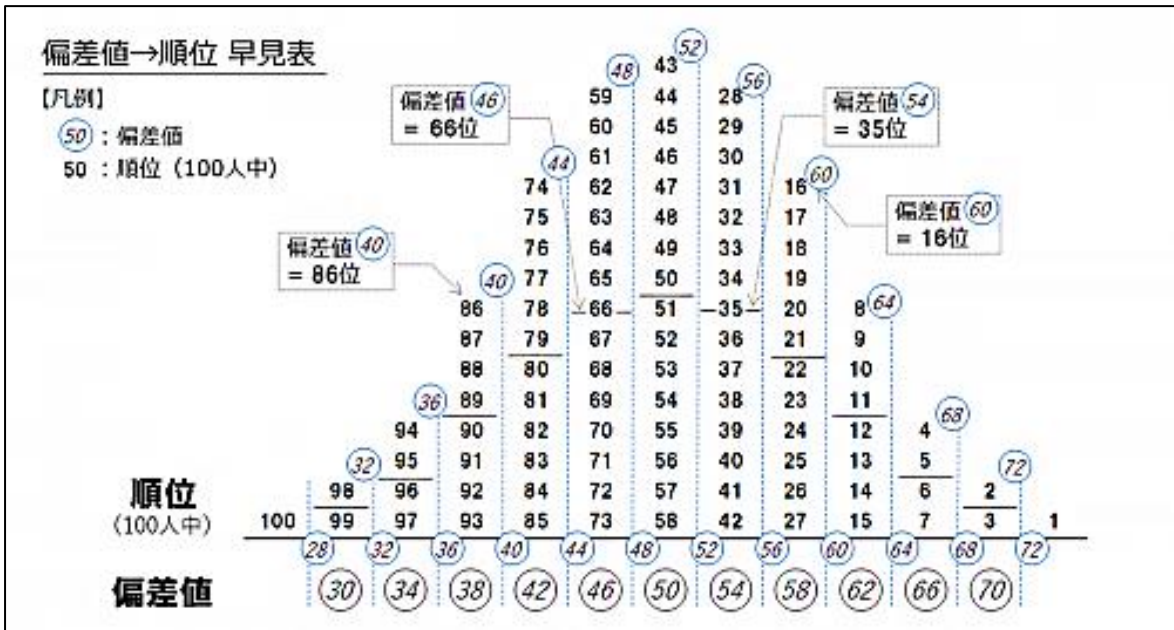
定時制高校は公立、私立もあります。そもそも定時制高校は働きながら『高校卒業資格を取るため』の学校でした。今は、仕事をしながら通う、学び直しで通う、全日制(フルタイム)の授業を受けられないという人を対象にした学校です。午前部(8~12時頃)、午後部(12時~16時頃)、夜間部(16時~20時頃)という3部に分かれていることから『三部制』という学校もあります。

メリットは、学校の時間帯以外が自由だということ、仕事ができること、学費が安いことです。デメリットは、宿泊行事はなく一般的な行事も少ない、部活動の数が少ない、卒業まで4年間かかること(三部制は1年生の前期終了後、「もう1つの部を受けたい」と申請すると3年間での卒業が可能。ただし午前部と夜間部は組み合わせる事ができない)です。4年間、クラス替えはなく担任も変わりません。



14. 「偏差値」ってなに？どう見るの？どうやって出すの？

偏差値とは、ある集団の中での位置を示す数値のことです。平均をとった人を偏差値50として、平均点より上なら51以上、平均点より下なら49以下になります。教科によって点数がばらついても、今回のテストと前回のテストの結果がばらついても、偏差値を見ることで、テストの難易度に左右されず、自分の実力のわかる数値が偏差値です。高校紹介本に目安として、掲載されています。



少し前の時代は偏差値で高校を選んでいましたが、近年は中学校で偏差値を使った指導はしていません。最初は『偏差値』はあくまで参考資料であったはずでしたが、『受験校を決める』＝『偏差値』になってしまった現状があったからです。一般入学者選抜は自己表現(実技や作文、スピーチ)がありますし、調査書の内容も検査に含まれます。中学校では自分の希望にあった進路を選ぶうえで、偏差値だけではなく、確認テストの点数を基本として指導します。

とはいえ、偏差値をご家庭で参考にするのは良いことだと思います。実力と希望を兼ね合わせて、進路を考えていけると良いです。

最後に…

「進路を決める」ということは「**人生の方向性を決める**」ということです。その大きな決断をする時期が3年生です。誰もが、この受験期では不安を抱え、目を背けることのできない現実と向き合っていくのです。

私が中学3年生の頃は受験が不安で不安で、自分を見失うほど荒れ狂いました。今、その不安の根源は何かと考えると、私には受験期の『知らない』『わからない』ものが多すぎたのだと思います。その『知らない』『わからない』は、今みんなが持っている悩みや感情と同じなのではないかと思うのです。ですから、私が今できるのは、『少しでも知るように、わかるようにすること』だと思います、このプリントを作りました。

これからの受験という道は、初めて自分の弱い部分と、正面から向き合うことになります。私が受験を通じて学んだことは「長い時間をかけて自分と向き合い、自分を知った人から道が拓けていく」ということです。ぜひ、この時期からじっくり時間を使って、自分だけの道を見つけて進んでいって欲しいと思っています。この通信が、みんなの人生の一步に繋がれば嬉しいです。困ったら、どうぞ質問を♪

**わからないことを、「わからない！」と言えない人は損をするぞ。
 良く聴いて、わかろうとしよう!!
 「わからない！」は言っていない!!**



Memo

